

は し が き

昭和50年9月から、われわれは横浜市中区寿地区(旧称は埋地地区)ドヤ街のフリードワーカーを中心とする研究会をスタートした。その動機はドヤ街の形成と存在が、横浜市にとって必然的であったこと、そしてその対策の後れと困難さを前提に、まず年代枠組設定による内容の詰めをはかり、そこから将来課題に取り組もうということにあった。

しかし、地域公営施設横浜市寿生活館の関係住民との対立による長期閉鎖と、新設(昭和50年10月)準公営寿町総合労働福祉会館の機能・活動の現状に直面して、メンバーは一緒に地域福祉対策に強い切迫感を受け、それが「叫び」への衝動に変わった。

これが本書取りまとめの直接理由であるが、この研究会が神奈川県匡済会(ならびに附属寿福祉センター)との関係から発足したこと、匡済会が本来大正8年日雇労働者対策社会事業機関として創設された経過上の理由もあり、本書を匡済会「福祉紀要」特集として刊行することとした。同時に、本紀要がVol.5(1973)以降中断したのは、時間をかけ一応程度の取りまとめを意図したこと、これが上記研究グループ結成とその結果につながったためである。

全体の構成・編集には芹沢があたったが、これは昭和35年ごろより十数年にわたる寿地区ドヤ街との接触歴をもったことによる。

なお、写真については「婦人之友社」村本晶子氏およびフォトグラファー原田宏氏の多大のご厚意によったこと、また編集事務には神奈川県匡済会谷口政隆主任の非常な労を煩わしたことを記し、深く謝意を表したい。

昭和51年10月

神奈川県匡済会長 芹 沢 勇

寿地区の人々

<執筆者および執筆分担>

芹 沢 勇	社会福祉法人神奈川県匡済会長 鶴見大学教授	1章, 3章
中 根 愛 治	元横浜市民生局横浜市寿生活館長 横浜市民生局岩井寮長	2章
佐 橋 文 寿	鶴見大学講師	4章
村 田 由 夫	神奈川県匡済会寿福祉センター ケースワーカー	5章
渡 部 幸 子	横浜市衛生局中保健所 保健婦	6章
益 巖	日本バプテスト横浜教会 牧師	7章
荒 川 武 次	神奈川県匡済会寿福祉センター所長 横浜市立大学付属高等看護学院講師	8章
遠 藤 一 雄	寿日雇労働者組合執行委員長	9章
加 藤 彰 彦	横浜市民生局寿生活館 生活相談員	10章
横浜市従業員組合民生支部福祉事務所分会寿生活館班		11章

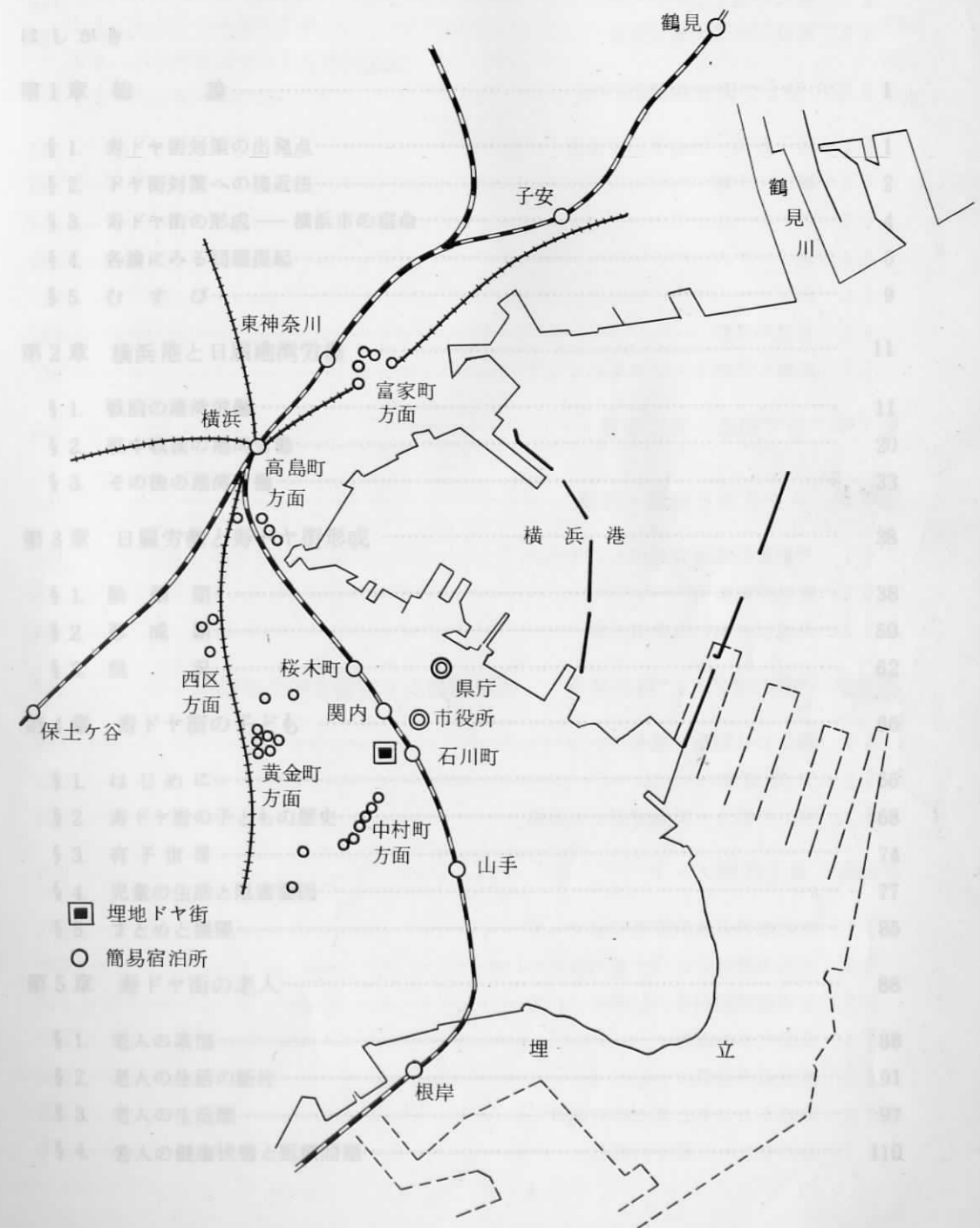


寄せ場のひるさがり・あぶれた人人。



第1図 横浜埋地ドヤ街および市内簡易宿泊所分布

(昭和42年)



目 次

はしがき

第1章 総 論	1
§ 1. 寿ドヤ街対策の出発点	1
§ 2. ドヤ街対策への接近法	2
§ 3. 寿ドヤ街の形成——横浜市の宿命	4
§ 4. 各論にみる問題提起	6
§ 5. む す び	9
第2章 横浜港と日雇港湾労働	11
§ 1. 戦前の港湾労働	11
§ 2. 戦中戦後の港湾労働	20
§ 3. その後の港湾労働	33
第3章 日雇労働と寿ドヤ街形成	38
§ 1. 胎 動 期	38
§ 2. 形 成 期	50
§ 3. 現 況	62
第4章 寿ドヤ街の子ども	66
§ 1. は じ め に	66
§ 2. 寿ドヤ街の子どもの歴史	68
§ 3. 有 子 世 帯	74
§ 4. 児童の生活と阻害要因	77
§ 5. まとめと展望	85
第5章 寿ドヤ街の老人	88
§ 1. 老人の素描	88
§ 2. 老人の生活の断片	91
§ 3. 老人の生活歴	97
§ 4. 老人の健康状態と医療問題	110

§ 5. 部屋の状況	112
§ 6. 老人の家計	113
§ 7. 老人のコミュニケーション	120
§ 8. 横浜市の老人福祉制度	122
第6章 寿ドヤ街と保健婦活動	127
§ 1. 性・妊娠・出産そして養育	127
§ 2. 結 核	133
§ 3. ア ル 中	134
§ 4. 老 人	135
§ 5. 命	137
§ 6. 社会的資源	137
§ 7. 医療・保健サービスをめぐって	142
第7章 寿で相談を受ける者	145
第8章 ドヤ生活と健康・医療	153
§ 1. 労働者の健康管理について	153
§ 2. 乳幼児対策	156
§ 3. 寿地区における診療活動	164
第9章 “喰わせろ” “寝かせろ” 地域運動から労働者組合運動へ	169
§ 1. 職よこせ闘争と越冬	169
§ 2. 労働運動	202
§ 3. 地区の動きと労働者組合の性格	208
第10章 寿生活館ノート	227
§ 1. 生活館の基本的姿勢をめぐって	231
§ 2. 不況の深刻化と市の寿対策について	237
§ 3. 生活館閉鎖前後の状況について	245
§ 4. 長期化への道程	255
§ 5. 生活館の論理について	262
§ 6. 職場をとりもどすための試行	268
§ 7. おわりに——若干の提言	273

第11章 行政現業班は考える	296
§ 1. 日雇労働者の実態	296
§ 2. インフレ不況の影響	298
§ 3. 不況対策の中の寿生活館問題	301
§ 4. 自治体への提起	306

あ と が き

福 祉 紀 要 No. 6. 7. 8. 合併号

1976. 10.

社会福祉法人 神奈川県匡済会

横浜市神奈川区鶴屋町2丁目13番8号

TEL 045-314-3651

印刷 商工印刷社 ☎044-222-2871